

鹿忍（瀬戸内市牛窓町）槌ヶ谷出土の装飾須恵器と相撲伝来史

先史古代研究会 丸谷憲二

1 はじめに



平成9年発行の『牛窓町史資料編Ⅱ』の槌ヶ谷出土資料に、「この東京国立博物館所蔵資料は、相撲を取っている場面などで有名な装飾須恵器が含まれており、注目されていたが、詳細は不明であった。」とある。この説明では、出土須恵器が相撲伝来史にとって重要な出土品であることを理解できる読者は皆無であろう。装飾須恵器の相撲伝来史上の評価について報告する。

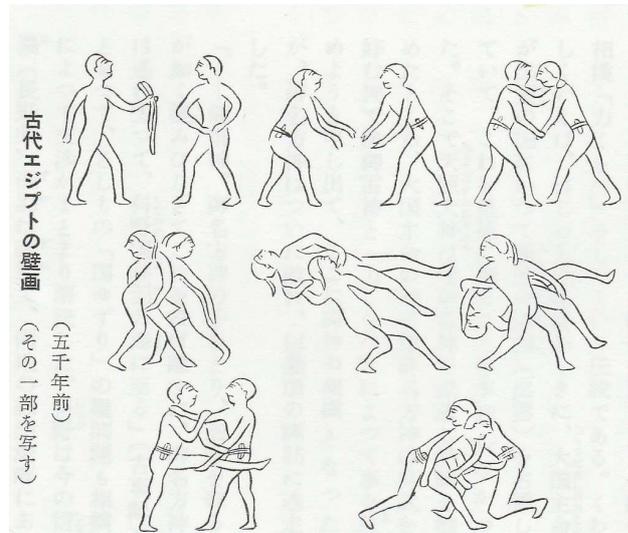
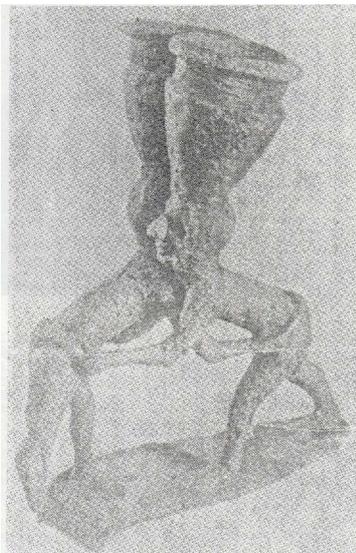
2 槌ヶ谷遺跡の場所



牛窓線より西脇海水浴場への途中の山頂に、槌ヶ谷1号古墳と2号古墳がある。しかし、表示看板も無い。案内がないと訪問できない。

3 『日本相撲史』の祝部土器の評価

「第一遍 相撲の起源 世界における相撲」に、鹿忍槌ヶ谷出土の装飾須恵器が日本相撲発達史の概略の中で紹介されている。



鹿忍村字槌ヶ谷出土の装飾付の祝部土器の装飾は、古代バビロニアの古都カフエアより発掘され、裸で禪状の帯を締めた青銅の相撲人形は日本の相撲に類似している。古代バビロニアとは、メソ

ポタミア（イラク）南部、チグリス川とユーフラテス川の間を中心に栄え、バビロン第1王朝（古バビロニア）は、紀元前 1894～前 1595 年である。古代エジプトにもナイル川の

横穴古墳壁画に、レスリングの取り組みの形を示す裸体が描かれている。相撲が日本の国技になる前に、世界中に類似した競技があった。

4 槌ヶ谷出土の装飾須恵器を製造した渡来人の渡来元の推定

世界に見られる相撲に似た民俗競技を比較する。

- ① モンゴル相撲として知られるのは、人口の70%を占めるハルハ系のボフである。



- ② セネガル（西アフリカ）のブレは、神話伝説「旱魃があつて大地の神と海の神の力比べが起源」とされ、相手との間合いを取つての組合、相手を投げて倒せば勝ちになり、農耕儀礼に端を発する点等々、日本の相撲との共通点が多い。横綱の土俵入りの不知火型に似た舞踊もある。

- ③ 韓国相撲シルムは、5世紀頃の高句麗角抵塚玄室の相撲壁画がある。砂を入れた直径9mの円内で行う点が似ている。



- ④ 中国のシュアイジャオ（摔跤、摔角、shuāijiǎo）は、漢族の伝統武術。相撲よりもレスリングに近い。



右の事情を日本相撲発達史の概略としてのべて見よう。日本においても千四、五百年前、古墳文化時代の遺跡から発掘された土偶の中にしばしば相撲の形態を見出すことができる。大正の頃岡山県邑久郡鹿忍村字槌ヶ谷において発見された装飾附の祝部土器の中に、脚つきの壺が肩についた小さな土偶があつて、この人形は二人の男が立ち合つて組打ちしている姿であつた（上野博物館所蔵）。これは前にのべたバビロニアにて発見されたものと似ているのも興味がある。日本においてもこれらの古墳発掘品に相撲の形態を見出すことは、日本の上古時代においてすでに相撲に近いスポーツ（闘戯）が相当に発達していて、豪族の古墳の中に埴輪の装飾器物として同葬されたものと思える。

5 日本相撲史の起源説話と吉備国



神話では、『古事記』の建御雷神（たけみかずち）と建御名方神（たけみなかた）の力くらべ。『日本書紀』では、十一代垂仁天皇の七年に行われた野見宿祢（のみのすくね）と当麻蹶速（たいまのけはや）の相撲である。野見宿祢は出雲国出身で土師連の始祖である。瀬戸内市長船町土師に地名が残り、鹿忍に土師家祖先碑がある。

当麻蹶速は、當麻広島（672年の壬申の乱時の吉備国守）の先祖であろう。吉備国に當麻神社（岡山市中区米田 551）が残されている。備前国古社 128社の一である、昭和 13 年に河川改修のため、現在地に遷座している。当麻寺（奈良県葛城市當麻町）に当麻蹶速の碑がある。

6 まとめ

- ① 相撲は国技であり、日本独自の格闘技と思っている人が多い。しかし、世界中の古墳より発掘された出土品より、外国生まれ日本育ちの国技である。
- ② 『牛窓町史資料編Ⅱ』では、「このような装飾須恵器については間壁葎子などが指摘するように朝鮮半島との関わり、朝鮮系渡来系集団との関係が注目されている。」としているが、相撲伝来史・地名学から間違いと指摘したい。
- ③ 日本の相撲と一番似ているのは、神話伝承を含めて、西アフリカのセネガルで行われているブレである。（関連情報 西大寺会陽で奪い合う枝牛玉と同一形状のものが、セネガルとコートジボアールで使用されている歯木（歯ブラシ）である。）
- ④ 日本人と一番外見が似ているのが、モンゴル相撲のボフである。バイカル湖周辺からの渡来が DNA から証明されている。
- ⑤ 古代バビロニアで発掘された相撲人形が鹿忍槌ヶ谷出土の装飾須恵器と類似している。チグリス・ユーフラテス川周辺からの渡来も考えられる。類似した装飾須恵器は約 600 個発掘されており、比較分析が必要である。近くの長船町磯上からも発掘されている。
- ⑥ 『日本書紀』で消されたのが、野見宿祢と当麻蹶速との吉備国での記録である。

7 参考文献

- ① 『牛窓町史資料編Ⅱ』平成 9 年 牛窓町史編纂委員会 牛窓町
- ② 『日本相撲史 上巻』酒井忠正 昭和 31 年
- ③ 『相撲大事典 第四版』金指基 2015 年 日本相撲協会 現代書館
- ④ 『改訂 邑久郡史上巻』昭和 28 年 邑久郡史刊行会
- ⑤ 『饒速日・物部氏の原像』加古樹一 編集工房ノア
- ⑥ モンゴルのボフ <http://www.i-wanna-travel.com/r0-mongolia91.html>
- ⑦ セネガルのブレ <http://ameblo.jp/domidomi1657/entry-11169987766.html>
- ⑧ 韓国相撲のシルム <http://nobody0728.blog.fc2.com/blog-entry-8331.html>
- ⑨ 中国のシュアイジャオ <https://ja.wikipedia.org/wiki/>